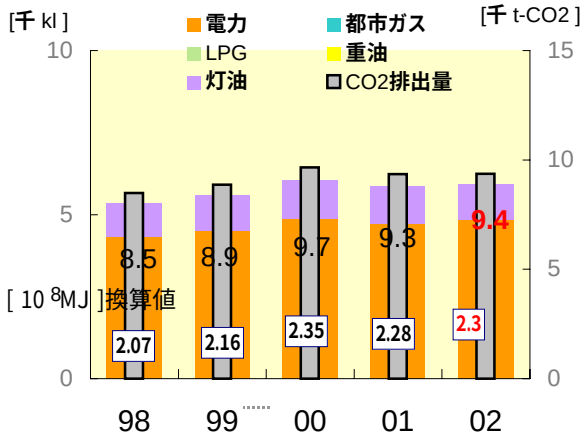
日本ビクター株式会社　林間工場

都道府県名	神奈川県			
所在地	大和市下鶴間１６１２－１			
主要製品	コンパクトディスク			
ISO14001認証　取得年月	1997年4月	最新更新年月	2003年4月	
問合せ先	ソフトメディア事業センター　環境管理グループ			TEL: 046-275-4215

パフォーマンスデータ　順法データ　取組み紹介　環境方針

■エネルギー使用量



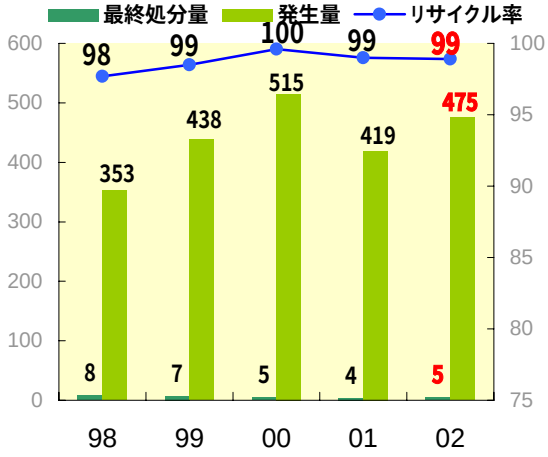
※電気のCO2排出係数は 0.357ｋｇ･ＣＯ2/ｋＷｈで算出。

エネルギーのコメント

２０００年度をピークに、その後ほぼ横這い傾向。

■産業廃棄物･有価発生物

単位:トン　リサイクル率:％

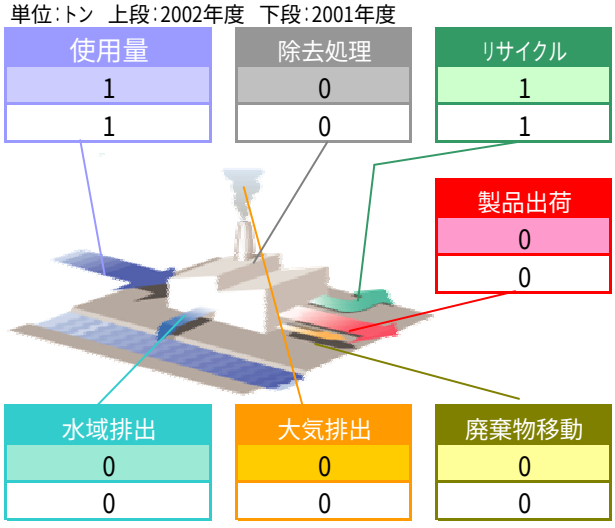


廃棄物のコメント

原単位は向上しており、リサイクル率もほぼ１００％を維持。

■化学物質マテリアルバランス

単位:トン　上段:2002年度　下段:2001年度

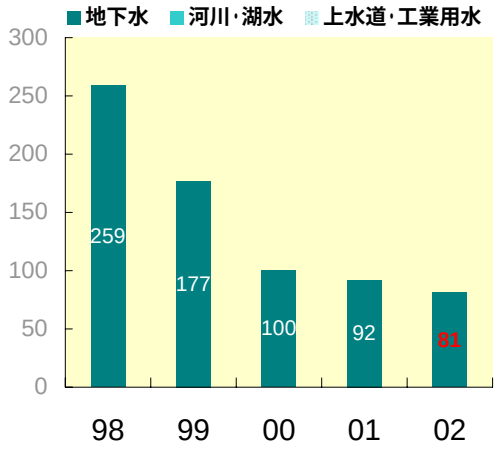


化学物質のコメント

使用量変わらず、廃棄物同様リサイクル１００％を維持。

■水の使用量

単位:千㎥



水のコメント

全て地下水を利用、リサイクルと節水により揚水量の削減が顕著。

■大気汚染物質排出量

NOx	2	t
SOx	0	t

■水質汚濁物質負荷量

COD	0	t
窒素	0	t
リン	0	t

大気と水質のコメント

いずれも基準値を大幅に下回り、水質汚濁物質は水使用量減に伴い更に軽減。

順法データ

■大気　(大気汚染防止法、条例･協定)

項目	施設名	規制値	実測値		
			平均値	最大値	測定頻度
NOx (ppm)	ボイラー1	180	96	110	2回/年
	ボイラー2	180	78	93	2回/年
	-	-	-	-	-
SOx Nm³/h	ボイラー1	5.58	0.0016	0.0019	2回/年
	ボイラー2	5.58	0.0018	0.0022	2回/年
	-	-	-	-	-
ばいじん g/Nm³	ボイラー1	0.3	0.0057	0.0065	2回/年
	ボイラー2	0.3	0.005	0.005	2回/年
	-	-	-	-	-

主要な施設について記載

■水質　(下水道法　、条例･協定)

項目		規制値	実測値		
			平均値	最大値	測定頻度
pH(中性7)		5～9	7.8	8.2	1回/月
BOD		600	6.9	38	1回/月
COD		ー	ー	ー	ー
SS		600	4.3	11	1回/月
ノルマルヘキサン	鉱物油	5	<1.0	1	1回/月
抽出物質	動植物油	30	ー	ー	ー
フェノール		0.5	ー	ー	ー
銅		1	0.06	0.06	1回/年
亜鉛		1	＜0.05	＜0.05	1回/年
溶解性鉄		3	＜0.05	＜0.05	1回/年
溶解性マンガン		1	ー	ー	ー
全クロム		2	＜0.05	＜0.05	1回/年
大腸菌群数 (個/cc)		ー	ー	ー	ー
窒素		ー	ー	ー	ー
リン		ー	ー	ー	ー
よう素消費量		220	2.3	5.4	1回/月
ニッケル		1	<0.05	<0.05	1回/月
ｱﾝﾓﾆｱ性、亜硝酸性、硝酸性窒素		380	18	18	1回/年

主要な排水口について記載

以下の健康項目は定量下限値及び規制値以下です。
鉛／化合物、ｶﾄﾞﾐｳﾑ／化合物、シアン化合物、六価クロム化合物、砒素／化合物、水銀及びアキル水銀その他の水銀化合物
ﾄﾘｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ、ﾃﾄﾗｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ、ジクロロメタン、1.1.1-ﾄﾘｸﾛﾛｴﾀﾝ、ほう素／化合物、ふっ素／化合物

■悪臭/騒音･振動/その他の順守状況

悪臭	基準値超過なし
騒音･振動	基準値超過なし
	報告すべき事項はありません

注釈>>>

･「規制値」は法または条例および協定の値を記載しています。

･「ー」は規制対象外または実測値なしを示します。

取組み紹介

当事業所は神奈川県のほぼ中央部に位置し、丹沢山系に近く、豊富な地下水に恵まれ、又、住居地域に囲まれた静かな環境にあります。
1970年にステレオシステム工場として操業を開始し、以降1976年にはレコード工場、1984年にはＣＤ工場と変遷し現在に至っております。
1997年にＩＳＯ１４００１を取得し、主に省エネルギー（電力、灯油）と揚水量・廃棄物・梱包材の削減を目的とした改善活動を推進してまいりました。
省エネルギーのうち灯油の削減は順調に推移しておりますが、電力についてはここ2年間目標未達でありますので、昨年度より固定電力の削減に繋がる施策を積極的に展開し、原単位、総使用量双方の削減に向けて努力を続けております。
一方、揚水量は、間接冷却水の徹底したリサイクルにより大きく削減致しました。
又、廃棄物に関してはほぼ１００％のリサイクル化を達成、今後は総排出量の削減を主体に活動してまいります。
梱包材に関しては、仕様の許容範囲内での簡素化、段ボール箱の転用、通い箱の採用等の施策により当初の目標を達成しました。

環境責任者　　景山　康二

環境方針

基本理念

日本ビクター㈱林間工場は経営基本方針スローガンのもと、全ての事業活動において「地球環境の保全」に取り組み、国際社会から信頼される「良き企業市民」として持続的発展が可能な社会の実現に向かって努力します。

方　針

音楽、映像、データの記録済みディスクの生産事業体として、「環境の保全は企業に社会的責任である」ということを深く認識し、技術的・経済的に可能な範囲で、環境保全活動を以下のように推進します。

1 製品及びサービスを含む事業活動より生ずる環境影響を常に考慮し、環境目的及び目標を定め、定期的に見直し、環境負荷の継続的な低減を図ります。
2 環境に関する法規制等を遵守し、必要に応じ自主基準を設定し、汚染の予防に努めると共に、管理の質を高めます。
3 環境保全活動を推進するための組織・体制を常に整備し、環境監査を実施することにより、環境保全活動の継続的な改善を図ります。
4 従業員の環境に関する知識を高めるとともに、方針を周知徹底し、全員で環境の保全に取り組みます。
5 林間工場の事業活動に協力を得ている取引先に対しても本方針への理解を求め、協力して改善活動及び汚染の防止を推進します。
6 以下の6項目を環境目的・目標に設定し、継続的改善活動を重点的に取り組みます。
1) 地球温暖化防止等のために、使用電力及び灯油の削減。
2) 地球環境保全のため、揚水の削減。
3) 梱包の改善による梱包材使用量の削減。
4) 廃プラスチック、古紙、金属屑などの、総排出量、及び廃棄物の削減。
5) 生産資材グリーン購買の推進。